



# アコンサス

【校是：責任 友愛 努力】

令和 2年 (2020年)  
3月号 ②  
発行  
能美市立辰口中学校  
波佐尾 雅美

## めざす学校・生徒像

た 楽しい学校  
つ つながり合い高め合う生徒  
の 伸びゆく能美市を支える生徒  
く くじけずやり抜く生徒  
ち かいっぱい生きる生徒

**163名 春風とともに巣立つ**

**卒業おめでとう!**



3月13日、例年より時間短縮及び規模縮小を図り、第73回卒業証書授与式を行いました。1、2年生に晴れ姿を見せられなかったのは残念ですが、ご来賓2名、保護者、代表在校生徒、そして教職員に見守られながら、一人ひとり証書を受け取り、立派に巣立っていきました。式歌「旅立ちの日に」は心のコもった歌声でした。

### ◆送辞◆

在校生代表 間嶋 康太

<前文略> 3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本来ならば、僕だけではなく1年生166名、2年生162名が みなさんの門出を共にお祝いするはずでした。今日、参列できなかった328名の思いもせて、在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

この3年間、さまざまな思い出があったと思います。僕たちが入学してから二年間、先輩たちとの思い出はどれも素晴らしいものでした。しかしこの思い出の数々は、僕たちの気付かない間に、引っ張ってきてくれた先輩たちがいたからこそできた思い出です。

五団の力がぶつかりあった運動会。「縁人全快」のスローガンの通り、最初から最後まで全快の運動会でした。中でも「よさこい総踊り」では見事に新時代を駆ける五つの嵐がグラウンドで吹き荒れました。

秋の深まりと共に行われた文化祭。合唱コンクールや演劇「ヴェニス商人」など内容の濃い二日間となりました。中でも印象深いのは、各部キャプテンと元キャプテンで繋いだタスキを引き継ぐ場面です。未来へ「繋ぐ」最高の文化祭でした。

先輩たちと一番長い時間を過ごした部活動。共に汗を流し頑張って乗り越えた夏。緊張感の走る新人大会など一緒に様々な経験を学んできました。時には叱られることもあったけれど、その度に自分たちを成長させてくれました。加賀地区で見た 先輩たちの「絆」は今でも目に焼き付いています。二年間、先輩たちと過ごした日々は一生の宝物です。

今まで辰口中学校の伝統を引き継いでくださりありがとうございました。まだ未熟な僕たちですが、一步ずつみなさんのような最高の先輩になれるよう努力していきます。皆さんの益々のご活躍を願い、在校生の送辞といたします。



## ◆答 辞◆

卒業生代表 川端 賢人

「時に初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。」

「令和」になり、初めて迎えた冬。雪の代わりに梅の花が舞う、例年になく、暖かい冬となりました。この三年間、大雪などの自然災害や、最近の全国の学校の一斉臨時休校など、世の中で起こる出来事に、日常が、当たり前でないことを感じながらも、無事、僕たち百六十三名は、晴れの卒業式を迎え、喜びを胸に、力強く巣立ようとしています。

生誕十五周年を迎えた能美市と、共に生まれた僕たちは三年前、期待と不安を胸に、この辰口中学校の門をくぐりました。全てが初めてで、先輩方の大きな背中を、後ろから追いかけることに、必死だったように思います。学年が上がるにつれ、大きな責任感が芽生えると共に、勉強と部活動の両立に、不安を抱くようになっていきました。しかし、試行錯誤しながらも、自ら学び、考え、やり遂げた課題探究学習を通し、自分たちから発信することの大切さを学び、自信をつけていきました。

四月、私たちはいよいよ最高学年となりました。全校生徒が充実した「楽しい学校」生活を送るために、三年生としてどうしたらよいのか……多くのことに戸惑いました。

勝利を目指し、戦い続けた部活動。焦りは募るばかりで、日々の練習の中で仲間とぶつかることもありました。その一方で、些細なミスから、チームの勝敗を分ける、辛く苦しい場面を支えてくれたのも、やはり、仲間でした。

歓喜と悔し涙の明暗を分けた、令和初の運動会。優勝を目指し、五つの団がエンジン全開でぶつかり合いました。一つになるために、各団みんなが道を模索し、全力を出し切りました。五輪が重なり合い、全校が一体となったよさこい総踊りは、勝負を忘れ、自然と笑顔が輝いた素晴らしいものになりました。

そして、心を繋いで作り上げた文化祭。全員がそれぞれの思いを胸に、尽力しました。その思いは、日に日に大きくなり、みんなが繋がり合い、最高の文化祭を創り上げることができました。特に合唱は、僕たちの三年間の集大成でした。まとまりがなく戸惑いながら始まった練習。しかし、最優秀賞に向けて、熱い思いをお互いに伝え合うことが、いつの間にかクラスの繋がりを強めていきました。

たくさんの人と出会い・関わる中で、様々な意見や考え方を認め合いながら、数多くの経験を培ったこの三年間は、私たちにとって、かけがえのない時間となりました。

今、私たちは令和初の卒業生として、ここに立っています。いよいよお別れの時です。一・二年生の皆さん。僕たちを支え、ついてきてくれてありがとう。次は皆さんの番です。感謝の心、諦めない心を持ち続け、お互いの思いを発信し合い、仲間と力を合わせ、僕たちからのバトンを繋ぎ、新たな歴史を作っていくてください。

共に三年間学んできたみんな。みんなと出会い、本当に最高の中学校生活を送ることができました。ありがとう。最高の仲間と共に深めた友情は、何物にも代えがたい宝物です。この思いを胸に、強く、新しい一歩を踏み出していきましょう。

お世話になった先生方。素直になれず、失敗もたくさんしてきた僕たちを、優しく、時には厳しく、愛情いっぱい包み、導いてくださり、本当にありがとうございました。

家族のみんな、行き場のない思いに悩んでいるとき、温かく見守り、支え続けてくれたのは、他でもない家族でした。普段は恥ずかしくて言えないけれど、ここまで育ててくれて本当にありがとう。

た 楽しかった学校生活。

つ つながり合い、高め合った三年間でした。

の のびゆく能美市の未来を支えられる人間に成長していきます。

く 苦しみも喜びも、共に支え合い過ごした思い出を胸に

ち 中学校で学んだ力を活かして、この先どんなことにも立ち向かい、力いっぱい歩んでいきます。

最後に、本日お集まりの皆様のご多幸と母校のご発展をお祈りし、答辞といたします。



## ◆式辞◆

校長 波佐尾 雅美

### <前文略>

一六三名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。一人ひとりに卒業証書を渡しながら、この三年間を思い出し、胸がいっぱいです。皆さんの巣立つ姿を一、二年生に見せられなかったことは残念ですが、皆さんが最上級生として頑張ってきたことは、間違いなく後輩たちの心に残っています。

さて、近年、情報化やグローバル化の急速な進展、絶え間ない技術革新により、社会が急速に変化し、将来を予測することが困難な時代になってきていることは、これまでも何度も皆さんにお話ししました。今、日本が、世界が直面している課題は、グローバル化の進展の負の側面とも言えるでしょう。誰もがこれまでに経験したことのない困難な状況に置かれ、叡智を集めてこの課題を乗り越えていくことを求められています。

学校も然り。臨時休校という私自身も経験のない事態に至り、本当に悩ましい日々ですが、角度を変えてみれば、貴重な気づきの機会になっているとも言えます。最も大きな気づき、それは「当たり前だと思っていたことがそうではなかった。」ということでしょう。学校へ行くのが当たり前、友達と過ごすのが当たり前、そう思っていた日常は、実は、貴重な、ありがたい時間だったのです。皆さんは、それを実感していることと思いますが、失って初めて、何気ないささやかな日常に幸せを感じ、感謝の念が湧いてきます。

運動会や合唱コンクールといった行事では、他者と心を合わせ協力・協働することや仲間との絆を学び、部活動では鍛えられた強い体と精神力を獲得しました。休校の中で不安や孤独を感じたとき、これらが皆さんにとって力強い支えとなっていたことに気がついたのではないのでしょうか。

また、国語科の教材「作られた『物語』を超えて」を読んで、ある人はこのように学びました。「たった一つの出来事からまったく違うことを想像し、あたかも本当にあったかのように思い込む。そして人はどんどんその誤解を大きくしていく。人は協力しあえば、大きな力になる。しかし、それは良いことでも、悪いことでも同じように大きな力になるということだ。」これは、SNSの情報を鵜呑みにしたり感わされたりしないための大事な考え方です。今後増えるであろう「答えの見えない課題」に立ち向かうためには、溢れる情報の中から何が正しいのかを見極め、よりよい判断をし、正しい意見を発信していく——その重要性にも気づいたことでしょう。

皆さんには、この気づきを自分事として捉え、行動に移してほしい、これからの社会がどのように変化しようとも、自信をもって自分の未来を切り拓き、令和という新しい時代を、力強く生き抜いていってほしい、そう願います。めざす学校・生徒像「た・つ・の・く・ち」に迫るために皆さんが取り組んできたこと、その過程において、力は十分に付けてきたのです。

### <中略>

卒業生の皆さん、私から伝える最後のメッセージは、やはり「た・つ・の・く・ち」です。どうぞ、「たのしい」人生を送ってください。そのために、人との「つながり合い」を大事にしましょう。温かいふるさと「能美市」に愛情と誇りを持ちましょう。困難はあるのです。「くじけず」挑戦し続けましょう。そして、どんな事があっても「力いっぱい」精いっぱい、胸を張って生き抜いていってください。辰口中学校は、皆さんの幸せを願い、これからも応援し続けることをここに約束し、式辞といたします。



日々の写真は、辰口中学校ホームページに載せてありますのでご覧ください。  
[http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~tatsukuj/NC2/htdocs/index.php?page\\_id=0](http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~tatsukuj/NC2/htdocs/index.php?page_id=0)

辰口中学校

検索